TAKE FREE
社会医療法人友愛会

FACE

VOL.002 2020.1

統括院長就任の挨拶

社会医療法人友愛会
豊見城中央病院・南部病院
統括院長
新垣　晃　Arakaki Akira

2019年12月より統括院長を拝命いたしました新垣晃と申します。

今回の私の役割は、2020年6月に移転が予定されている2つの病院（現:豊見城中央病院は豊見城市字与根に建築中の友愛医療センターへ　、現:南部病院は豊見城市字上田にある豊見城中央病院へ）の機能分化を推し進め、それぞれの病院機能を止めることなく早期移転を実現させることです。課題は少なくない状況に「さて、自分にできるか」と一瞬考えましたが、冒険好きな私は「アドベンチャーとして捉えよう!困難を解決しながら前に進んでいくのがアドベンチャーである」と、統括院長の役割を引き受けました。

私は15年間勤めた琉球大学医学部附属病院の整形外科から1995年に豊見城中央病院へ赴任して以来、当時の比嘉英麿副院長より整形外科を引継ぎ、医療の役割とは、「全ての患者さんに豊かな人生を送ってもらう手助けをすること」と考え、上肢・下肢運動器手術治療に邁進してきました。1999年には股関節を専門とする永山盛隆先生（現:人工関節センター長）が仲間として加わり、ともに昼夜を問わず診療に励んだことで整形外科の人工関節分野は、より一層拡充してまいりました。これにより、さらに多くの優秀な医師が集まり、2016年には毛利正玄先生（現:副院長）の入職と、現在の整形外科ブランドは各専門分野のエキスパートが集まり、互いに融合・協力し合うことで発展してきたと自負しています。

ここまで発展できたのは、循環器内科、糖尿病内科、腎臓内科、脳神経外科など多くの診療科との垣根のない院内連携のおかげであり、診療科単独では対応できない多くの手術にも挑戦できたからです。友愛会の持つ総合力を大変心強く思うと同時に、これまで連携をとってくださった地域の先生方には心より感謝しております。友愛会では医師をはじめとして各専門職スタッフが診療科の枠を超えて常に新しい医療へ挑戦するチーム医療の確立を目指しています。これまで以上に医療における挑戦を続け、皆様へ質の高い医療を提供し、近隣の医療機関との地域連携をさらに強化させることで地域を幸せにしたいと考えています。今後とも友愛会を宜しくお願いいたします。

名医がすすめる本当の名医 膝部門

所在地	医師名	施設名（所属、肩書など）	施設の手術数			
			全人工膝関節置換術（TKA）	全人工膝関節再置換術	単顆人工膝関節置換術（UKA）	骨切り術
沖縄県豊見城市	新垣晃先生	豊見城中央病院（顧問）	607件	3件	12件	46件

女性セブン2019年12月12日号
名医がすすめる本当の名医（膝部門）に掲載されました

だから、ここにいる——

慣れ親しんだ地を離れ
ここ沖縄で日々患者と向き合う県外出身の医師たち。
なぜこの島に来たのか、その理由を尋ねると、
医療に対するそれぞれの熱い想いが見えてきた。

P4 山田 創 Yamada Sou
〈出身〉愛知県

柳田佳史 Yanagida Yoshifumi P6
〈出身〉三重県

P8 楢山耕平 Narayama Kouhei
〈出身〉北海道

佐藤 優 Satou Yuu P10
〈出身〉福岡県

脳神経外科　山田　創　Yamada Sou

筑波大学／1997年　卒

▼自己紹介

私は1997年に筑波大学を卒業後、東京女子医科大学病院へ入職しました。そこから約12年間は救急医として勤務しましたが、その際、急性心筋梗塞などの心疾患や脳卒中で搬送される患者さんが多くいらっしゃいました。その中で特に、脳卒中の患者さんの救命に関心があり脳神経外科への転科を決め、今では脳神経外科医として約10年となります。このように医師としてのキャリアの半分は救急医、半分は脳神経外科医として勤めてきました。

▼豊見城中央病院にくるまで

入職前に沖縄に3回ほど来たことがあります。私は、帝京大学ちば総合医療センターに勤めていて、当時、豊見城中央病院脳神経外科に在籍していた猪野屋博先生の手術に立ち会わせて頂いていました。その頃はここに勤めることになるとは考えもしませんでした。入職したきっかけは脳神経外科部長の孫宰賢先生とのご縁があったことです。孫先生とは以前一緒に働いていたこともあるのですが、2年ほど前にわざわざ東京まで来てくれて、居酒屋で豊見城に来るよう口説かれました。猪野屋先生がつくられた優れた脳神経診療システムと、孫先生の素晴らしい人柄と技術を知っていましたので、沖縄に来ることに迷いはありませんでした。

▼当院脳神経外科の特徴

在籍している脳神経外科医の3名全員が日本脳神経血管内治療学会認定　専門医（1名は指導医）です。これだけ医師が揃っているのは強みだと思っています。今回、「一次脳卒中センター」として認定されたことで、益々患者さんに貢献できると考えています。一次脳卒中センターとは、一般社団法人日本脳卒中学会が「24時間365日、脳卒中患者を受け入れることや、常勤の専門医がいること、緊急処置が必要な場合に迅速な対応ができること」などを要件とし、それらを満たす医療機関を認定するものです。t-PA静注療法や、機械的血栓回収療法の有効性が確立し、これら専門的医療を安定的に供給できる医療機関を確保することを目的としています。当院は医師事務作業補助者（Medical　Assistant）や、看護師、放射線技師などが一致団結しており、「患者さんが来るぞ」の合図でパッと集合し、すぐに行動するなど、患者さんを受け入れる体制が整っており、私たち医師は治療に集中することができます。麻酔科や内科の先生方も、急なコンサルトにも快く応じて下さいますので、本当に心強いです。

▼むすびに

上記のように当院は多職種のスペシャリストが集まり、それぞれが自律性と協調性をもち、一つのチームとして脳卒中診療にあたっているのが特徴です。一刻一秒を争う脳卒中診療の現場で、チームが有機的に機能し、時間短縮と医療の質の向上に繋がっているように思います。私自身もチームの一員としてあらゆる脳卒中に向かい合い、長く沖縄県の医療を支える一人でいられたらと思います。

#沖縄

“海がきれいでいいところだな”
実は大学時代にヨット部に在籍していたので、
海はとても好きなんです。いずれはマリンスポーツ
などもやってみたいですね。

#平常心

「手術の前にはコレをする」といった、願掛けのようなものはありますか?
の問いに対して。
それはないですね。そういうルーチンワークを作っちゃうと、緊急手術な
どでそれができない時に、手術が手につかなくなったら元も子もないで
すから。極力、浮き沈みなく常に平常心でいるように心がけています。

#ロードバイク

釣りやゴルフも少しやりますが、今の楽しみは何と言ってもロードバイクに乗る
こと！以前、北部地区を100kmほど走らせたこともありますが、とても気持
ち良かったですね。最近だと、院内の先生方数名と一緒に11/10に開催
された「ツール・ド・おきなわ2019」にも参加してきました。名護一周50kmを
1時間39分で無事完走しました。年代別チャレンジコース出場者のなかでも
遅い方でしたが、楽しかったです。来年は1時間30分を切りたいと思います。

#メッセージ

まずはしっかりと沖縄の地で、脳血管
疾患でお困りになっている患者さん
一人一人の力になりたいと思います。

消化器内科　柳田 佳史　Yanagida Yoshihumi
杏林大学／2010年　卒

▼自己紹介

私の父は消化器内科を開業しており、父の医師としての姿を幼い頃から見て育ちました。私が消化器内科医の道を選んだことにも影響しているのだと思います。

大学は東京で、卒業後は名古屋の名鉄病院で研修をし、6年目まで勤めていました。

色々な病院を経験することで自分の見識を広げようと、以前より好きだった沖縄で病院を探している際に、当院に出会いました。

▼豊見城中央病院にくるまで

名古屋では、外来や救急外来対応などの基本的な診療、また、消化器内科の専門に進んでからは、緊急の止血術、ERCPドレナージ術など、夜間緊急時に対応できる手技や治療を学んできました。医師数もあまり多くない病院でしたので、沢山の症例数を幅広く経験させて頂きました。

▼当院消化器内科の特徴

消化器内科は、肝臓、膵臓、大腸と、各分野の専門医がおります。時間外や休日の内視鏡オンコールも、消化器内科医が当番制で対応しております。また、消化器内科以外でも多くの専門診療科が揃っており、診療科間のコンサルトも盛んに行われています。連携する環境が整っていますので、私自身も日頃から、早めの相談を意識して診療にあたっています。

中頭病院との共同研究である再生医療（早期食道がんESD治療後食道狭窄に対する細胞シート治療）も当院の特徴の一つです。

▼むすびに

私が医療を行う際に気をつけているのは、「患者さんの状況に最も適した医療を提案できるように。」ということです。適切な処置や治療方法はもちろんですが、患者さんは、それぞれ年齢や職業、家族構成や考え方など十人十色です。それらを考慮した上での治療提案を心掛けています。そのため、普段から患者さんの声が届きやすいよう、聞く姿勢も大切にしています。

#沖縄

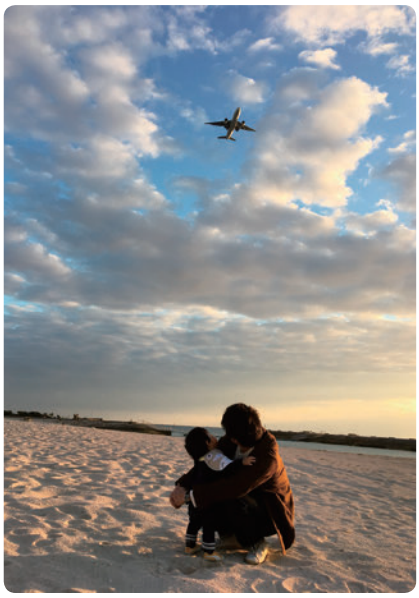
沖縄が好き。
これまで旅行でも来たことがあります。特段ゆかりがあるわけでもないですけど。すぐ近くにキレイな海があって散歩に行ったりもします。日常生活の中で、身近に沖縄を感じられるものがたくさんあります。それが沖縄の良いところじゃないかと思いますね。
そう言えば、両親がお正月などに旅行で来るときに、宮古島で合流したこともあります。
飛行機に乗ればすぐなので離島も行きやすいです。
沖縄は花粉症が無いのが、とても嬉しいです。毎年、春～秋は色々な花粉症で苦しんでいましたが、沖縄に来てから薬いらずです。
あ、冬が無いのは少し寂しいです。アイスホッケー部だったので（笑）。

#ヘリ添乗

せっかく沖縄にきたのでやってみようと、自分で希望して名前を時々入れています（笑）。「自衛隊のヘリに乗って離島からの転院に付き添う」という滅多に無い機会ですので、色々な経験をさせて頂いております。

#豊見城中央病院

見学に来た時に、副院長の加藤功大（かとうあつなが）先生が丁寧に説明して案内してくれたのが印象的でした。
上の先生が直接時間をかけて案内してくれる病院ってあまり無いんじゃないかな～。
私は何か特別な専門というよりは、幅広く消化器疾患を診られたら良いなと思っているんです。そういう意味でも当院はジェネラルや全身も診れるので魅力的ですね。
幅広い疾患に携わることが可能なので、特に若い医師にとっては良い経験になるんじゃないでしょうか。また、九州大学病院や、長崎大学病院など、県外のハイボリュームセンターと連携しているところも良いですね！皆が高度な医療を提供できるよう、切磋琢磨し働ける環境に感謝しています。
あと、“空港から一番近い病院です！（笑）”



心臓血管外科　楢山 耕平　Narayama Kouhei
札幌医科大学／2012年　卒

▼自己紹介

職業専門の高校を卒業後、電子機器の専門学校に通っていた私が医師を目指したのは、ひょんなことからでした。当時は医療系ドラマや漫画が流行していて、その影響から“医者ってかっこいいな”と興味を抱くようになりました。そう思っていた矢先に父が弁膜症で他界し、「心臓血管外科医になりたい」という強い想いがこみ上げ、医師という職業が興味から目指すという“決心”に変わりました。当時、母親が乳癌で入院加療中であったため、塾講師、ワインバー、ガソリンスタンド、配送業で働きながら独学で勉強し、約10年かかりましたが30歳で医学部に合格しました。

▼豊見城中央病院にくるまで

市立函館病院で初期研修を終え、心臓血管外科医として勤務していました。そこは大動脈・末梢血管治療がメインで、ステントグラフト・EVTなどの血管内治療を森下清文先生のもとで学んでいたのですが、心臓の勉強がもっと自分には必要と考え全国の病院を見学している時に、森下先生から「山内のところも1回見ておいてはどうか」と言われ、「ちょっと沖縄に行ってくる」と軽い気持ちで当院の心臓血管外科手術の見学に行きました。これが当院の心臓血管外科部長である山内昭彦先生との出合いです。手術を見学した際に、手ブレが無く速くてスムーズなどの手技の上手さに加え、山内先生の“術中の雰囲気”に惹かれました。2回程度の手術見学でしたが、「この先生は、自分に厳しく、手術や患者さんに対して絶対妥協しない人だ」と感じました。それまで幾つか心に決めていた病院はありましたが、その瞬間全て消えました。2018年6月から山内先生の元で勉強させてもらっています。

▼当院心臓血管外科の特徴

当院の心臓血管外科は急患が多いですが、麻酔科の先生方を始め、循環器内科や腎臓内科、糖尿病内科の先生方が快くコンサルトを受けてくれます。さらに、看護師や各医療スタッフも気力に溢れ、それぞれプロフェッショナルな視点から「何がベストなのか」患者さんのことを最優先に、一番いい方法を選択してくれる。本当の意味で、チーム連携がとれている病院だと感じています。そのおかげで私たちは手術に集中でき合併症も少なく、結果、患者さんは早期に回復ができる。と、正のサイクルが出来ています。

▼むすびに

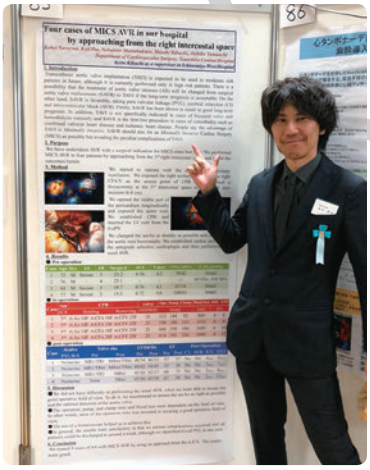
上述しましたように、私は医師になるまでに通常の人よりも時間がかかっています。特に、一人前になるには他科よりも時間と労力がかかると言われている心臓血管外科の分野において、これは致命的な事だと思っています。そのため、医師免許を取得した日から余計な事は考えずに、ただただ手術が上手になる事だけを目指し、ここまで来ました。遠回りしたことを後悔はしておらず、「塾講師で学んだことは患者様へのICや研修医への指導、学会発表等」に、「ワインバーで学んだ、お客さんをいかに喜ばせるかという姿勢は患者さんへの対応」、それぞれ医師になっても役立っていると感じています。

#沖縄

噂には聞いていたけど、おじいちゃん・おばあちゃんが“おじいちゃん、おばあちゃんではない”という現象！長寿王国と言われるだけあって、高齢の患者さんが元気。患者さん自身が元気なので、本土だと手術を控えるような年齢でも手術することもあります。実際、つい先日も、90代のA型解離を手術して救命しています。

#山内昭彦と安室奈美恵

小室哲哉と組んでいた頃から安室奈美恵のファンです。あそこまで自分の仕事（歌・客を喜ばせる事）にストイックになれる女性はなかなかいないと思う。プロフェッショナルという意味では山内先生とも共通していますね。安室さんが引退する年に当院に入職したんですが、山内先生からは「引退ライブの日は休みをやるから絶対に行けよ」と許可をいただいていました。600倍の競争率ですが当然のように当選し、引退ライブを楽しませていただきました。ついでに新聞にも載りました（笑）。そのせいで遠く離れた函館から「お前は何しに沖縄に行ったんだ」とその日のメールは鳴り止みませんでした。というわけで僕の中で山内先生と安室奈美恵さんはイーブンなんです（笑）



#メッセージ

僕は心臓血管外科でいえば、かなりの遅咲きなので、幅広い症例を診ていて手術件数も多い病院で、経験を積みたいと思っていました。そこで出会ったのが豊見城中央病院で心臓血管外科医として働く山内先生。運命の出会いでしたね。
症例を経験できる環境と山内先生の人柄、求めていたものにピッタリと合致していました。そして、妻はそんな僕に二つ返事でついてきてくれました。彼女も函館出身なので沖縄には知り合いもいません。僕は病院にいる時間が長い中でさみしい想いをさせていると思いますが、そんなことを感じさせず育児をしながら支えてくれている妻には本当に感謝しています。心臓血管外科医として僕はまだまだですが、心臓全般で様々な症例を経験し、ゆくゆくは山内先生のような心臓血管外科医になりたい、それが私の目標です。

外科　佐藤　優　Satou Yuu
九州大学／2014年　卒

▼自己紹介

2019年4月より九州大学の医局員として入職しました。父が内科医として開業しており、医師という職業が身近な環境で育ちました。九州大学医学部に進学し、講義や実習の中で、“実際に臓器を見て、触って、切除し、再建する”ことに魅力を感じ、外科医を志すようになりました。卒業後、福岡市にある浜の町病院で初期研修を行い、それぞれの科の魅力を感じましたが、最終的にやはり「手術がしたい」と考え、外科医への道を決意しました。

▼豊見城中央病院にくるまで

初期研修修了後は九州大学第一外科に所属し、福岡市内の病院をローテートしました。初期研修修了後すぐに働いた原三信病院では、はじめて外科医として、主治医として患者さんと接し、不安を感じながら、その分患者さんから感謝された際の喜びは大きかったのを覚えています。

その後勤務した九州大学病院で、それまで出会うことのなかった移植医療に関わり“悪い部分を取り除く”のではなく“失った機能を取り戻す”医療に魅了され、次第に移植外科医を志すようになりました。当院へ異動して再び移植医療に携わり、改めてその魅力を実感しています。

▼当院外科の特徴

当院の外科は、主に消化管と、移植・肝胆膵の2グループで構成されています。1人の患者さんを複数医師で診療することで、ベストな治療を検討でき、またオン・オフも切り替えやすい。つまり患者さんにとっては、より良い医療が提供でき、医師にとっては働きやすい環境です。さらに、各臓器の分野から、救急外科やがん化学療法まで、それぞれの領域にスペシャリストが揃っており、幅広い対応が可能です。私自身も幅広く学ぶことができ、充実した毎日を送っています。

また友愛会は様々な病院機能（高度急性期-急性期-回復期-地域包括ケア-緩和ケア）や施設（老健施設、健診センター、PET画像センター）を所有しており、それによる各所の連携が当院の強みだと思います。

▼むすびに

沖縄の魅力、人々の優しさを感じ、皆さんのお役に立てるように頑張りたいと思っています。ただ手術をする、ただ薬を出すのではなく、きちんと説明し、納得してもらったうえで治療を行い、「この病院に来てよかった」と思ってもらえる医療を心がけています。

私自身はまだまだ未熟な医師ですが、当院はひとりひとりの患者さんに、医師1人ではなく、診療科全体、あるいは病院全体で対応できる体制があります。今後ともよろしくお願い致します。

#バスケットボール

中学から大学までバスケットボールをしていて、今でも友愛会のサークルにも所属し、汗を流しています。先日は病院対抗の大会に出場しました。Bリーグのライジングゼファー福岡（沖縄の方々はご存知ないかもしれません）を応援していて、琉球キングスとの試合を観に行くのが楽しみだったんですが、残念ながらリーグ落ちしちゃって。キングスとの試合は見られそうにありません。

#沖縄

大学含め、これまでずっと福岡市内で勤務していたので、正直に言うと次も福岡市内が良いなと思っていました。ですが、異動の話が出て「来年、沖縄どう?」と言われたとき、「どうせ福岡を出るなら、沖縄で働いてみるのも良いな」と思い、二つ返事で「わかりました」と。もっと暑いかと思っていましたが、実際に住んでみると過ごしやすいですね。
沖縄の食べ物は好きです。特に沖縄そば。島酒（泡盛）は、沖縄の人と飲みに行くときは一緒に飲みますが、家ではビールですね、暑いし（笑）。
時々方言が分からないときがあります。特におじい、おばあ（笑）。一度、回診を終えて病室から出ようとしたときに、患者さんから「にへーでーびる」と言われて。何だろうって、また部屋に入っちゃいました。「お礼の意味よ、あんたナイチャーね?」って（笑）。

小学生の頃

#ローテーター

私は九大の医局員なので、福岡で関連病院に勤務するときは、同僚医師はたいてい九大の医局員ばかりです。豊見城中央病院に来て、今まで当たり前だと思っていたことが“九大での当たり前”だったんだと気付かされることがあります。豊見城中央病院での勤務は新鮮で、いろいろな意味で勉強になります。

#休日

妻と出かけたりしています。妻は福岡出身で、2人とも沖縄に住むのは初めてです。沖縄って、本土の人間からしたら観光地ですから、休日は沖縄旅行を満喫しています。最近は、テレビで見た大石林山に行ってきました。沖縄といえば海と思っていたけど、こんな場所もあったんだなって。雄大な景観で、気持ちよかったですね。

社会医療法人 友愛会

〒901-0243 沖縄県豊見城市字上田25番地
TEL098-850-3811　FAX098-850-3810
発行人／比嘉 國郎
編　集／広報誌編集委員会
印　刷／株式会社 東洋企画印刷

豊見城中央病院HP

臨床研修医ウェブサイト